

名産アイコンを
深掘りする



図1 兵庫県豊岡市周辺
左:『新選詳図』第四四図
右:『新詳高等地図』p.114

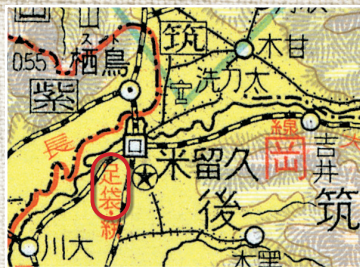


図2 福岡県久留米市周辺
左:『新選詳図』第三二図
右:『新詳高等地図』p.111

全国の名産について本を書こう。そう思い立って取材を進めていたことがある。ただし「静岡県のお茶」や「愛媛県のみかん」のように産地が広範囲にまたがるものではなく、特定の地域で全国シェアの過半を占めるような品物だ。例えば広島県呉市仁方のヤスリ。ここでは国内産の95%を生産しているし、ほど近い熊野町は化粧筆生産の8割を占める。扇子の骨は滋賀県高島市安曇川町で約9割、もっと占有率が高い石川県金沢市の金箔は全国の実に98%だ。

それぞれが独占的な産地となった歴史的経緯を取材するのは興味深い。私の本の企画はその後なんとなく消滅したが、それでも『新詳高等地図』の名産アイコンを見るたびに、先人たちの努力に思いをはせるようになった。戦後の高度成長期にどこも同じような町になったと思われがちな日本の各地方が、意外に特徴を持っていることを小さな絵柄は教えてくれる。

時代の流れに伴って名産が形を変えていくものも珍しくない。例えば兵庫県豊岡市には「かばん」のアイコンが描かれているが、戦前の『新選詳図』（昭和9年発行）には柳行李の文字がある（図1）。もともと豊岡盆地は主に円山川の氾濫原であり、柳行李はその湿地帯に自生していたコリヤナギを原料に作られたもので、豊岡藩がこれを奨励したこともあり、品質のよさで全国的に知られるようになったという。それらのノウハウの蓄積がかばんの製造にシフトして現在に至っている。

福岡県久留米市のタイヤは、戦前の地図帳では「足袋」であった（図2）。陸軍の第18師団のおひざもとでもあり、大量の地下たびの需要に応える複数の工場が存在したが、ゴム底のたびから転じて同じゴムを扱う自動車のタイヤ部門が独立したのが世界的な知名度を誇るブリヂストンである。

島根県安来市の「特殊鋼」も長い製鉄の歴史を反映した名産だ。古くから奥出雲では良質の砂鉄が採れることで知られており、それを溶かして和鉄を作る「たたら場」が明治期まで長く続いていた。安来の名を冠したヤスキハガネは特殊鋼の代名詞となっており、自動車エンジンのピストンリング、カミソリの替え刃、航空機部品など、それぞれ鉄鋼に加える金属の割合を変えながら現代の先端工業に貢献している。

神奈川県南足柄市には「フィルム」のアイコン。その製造には良質で大量の水を必要とし、箱根カルデラの外輪山にろ過された豊かな伏流水が得られるこの地ならではの立地である。富士フィルムがこの地に進出したのは昭和9年（1934）と古く、デジカメやスマホの普及でいったんはフィルム離れが進んだものの、昨今では「チェキ」のフィルム需要が急増している。

大量の水といえば、熊本市の上水道は水質のよさで知られている。阿蘇山の豊富な伏流水で賄われているが、隣接する菊陽町には「集積回路」のアイコン。ここに令和6年（2024）に新たに進出したのが台湾の世界的半導体メーカー TSMC の工場だ。大量で良質の水が安定して得られることが決め手である。「経済安全保障」の観点から日本政府がばく大な補助金を積んで招聘して話題になった。

地元は発展に期待を寄せるが、その反面で青森県むつ市にあった「靴下」のアイコンはコロナ禍の影響で消えた。「ステイホーム」の世の中となって女性用ストッキングの売り上げが激減、令和4年（2022）に従業員約600人を擁するアツギ東北の工場が閉鎖されたのである。

名産アイコン一つ一つの背後には、さまざまな歴史と経済の動きが反映されている。

いまお・けいすけ / 1959年生まれ。

出版社勤務を経て地図・地名分野の執筆を始める。著書に『地図帳の深読み』シリーズ（帝国書院）など多数。日本地図センター客員研究員。日本地図学会「地図と地名」専門部会主査。

